

海洋プラスチック汚染

現場からの報告

④



JEAN 事務局長
小島 あずさ

いて戻ると、毎朝大きめのレジ袋2〜3枚分のごみが集まります（ちなみにごみを捨てるのに使う袋は、ごみになって落ちていくレジ袋です）。

ちてきたことがあり、木の上でプラスチックごみが詰まった袋をついでいるカラスの姿がありました。

町に散乱するごみや、

海に流れていくごみの発生源はポイ捨てが主体だと思われていますが、実は【意図しない散乱】も相当量あると感じています。

日本では市町村ごとに

ごみの分別や収集のルールが細かく決められ、住民はそのルールを守って家庭のごみを出しています。ですから、ちゃんと回収ルートに乗って、焼却やリサイクルなどの処理がなされている、と多くの人は思っています。

でも、ごみ袋の口をちゃんと閉じていなければ、回収作業のときに路上にごみをごぼれ落ちてしまつこともあるでしょう。カラス除けのネットがあっても、重しを使うなどしっかりと被せていないと、カラスは上手にごみ袋を引っ張りだして食べ物を探し、まわりにごみが散乱します。強風でつながらが見えてきま

講演などそのことを

話すと、『日本の町はきれいだと思う。家庭ごみはルールを守って出しているし、もちろん自分もポイ捨てなんてしない。散乱ごみはそれほど多くないのでは？』と問われることがあります。ごみ

が散らかり放題という光景は、繁華街や駅前などでたまに見られる程度かもしれません。ですが、市街地のごみの一部が海

まで流れていく過程では、まさに『ちりも積もれば』の状況になってい

ます。

海を汚すプラスチックごみは、海辺での置き捨てや、漁業や港湾作業などから出るものばかりではなく、陸域で使用されている生活用品が多くを占めています。これまでに市街地に散乱したごみの一部や雨や風で水路に入り、その一部が海にまで流れ下ることをお伝えしてきました。

町のごみは意図せず散乱、海ごみに

いました。

しかし、町なかのごみはちっとも減りません。ために帰宅後に集めてきたごみを広げて写真に記録することを続けてみて

たところ、見事に毎日同じくらいの量のごみがあります。拾う場所は住宅街ですから、交差点や道路脇に吸い殻がぼつぼつ落ちていたり、所々に飲料容器や鉛の包みがある程度で、ごみは目立ちません。それでも、1時間ほどごみを拾いながら歩

きながら飲んだり食べたりしたモノの包装容器が散乱ごみの多くを占めています。歩きながら食べることはないはずの納豆や豆腐やマヨネーズの容器も落ちていま

す。見つけるたびに不思議でしたが、あるとき頭上から納豆のパックが落

ちてきたことがあり、木の上でプラスチックごみが詰まった袋をついでいるカラスの姿がありました。

町に散乱するごみや、海に流れていくごみの発生源はポイ捨てが主体だと思われていますが、実は【意図しない散乱】も相当量あると感じています。

日本では市町村ごとにごみの分別や収集のルールが細かく決められ、住民はそのルールを守って家庭のごみを出しています。ですから、ちゃんと回収ルートに乗って、焼却やリサイクルなどの処理がなされている、と多くの人は思っています。

でも、ごみ袋の口をちゃんと閉じていなければ、回収作業のときに路上にごみをごぼれ落ちてしまつこともあるでしょう。カラス除けのネットがあっても、重しを使うなどしっかりと被せていないと、カラスは上手にごみ袋を引っ張りだして食べ物を探し、まわりにごみが散乱します。強風でつながらが見えてきま

す。

す。



朝の1時間で集まったごみ（17年4月）。この前日にもほぼ同量のごみを拾っていた

入りきらない缶やペットボトルが回収箱の周辺に放置される

す。